

# あいちの魅力向上に関する提言

- ・愛知をキャッシュレス社会のトップランナーに
- ・リニア開通を契機に県内交通の再構築を
- ・愛知を世界一のアニメ・漫画の聖地に
- ・水素エネルギーを活用した  
先導的な社会づくりと人材づくりを

平成30年12月3日

自由民主党愛知県議員団

## はじめに

明治維新により我が国が初めて近代的な国家を樹立してから150年が経過した。世界から見れば米と絹しか産品のない極東の小国がひたすら「強い国・近代国家」を目指し、日清・日露戦争、第一次世界大戦を経て欧米列強に比肩しうる大国への道を突き進んだものの、日中戦争に続く第二次世界大戦（太平洋戦争）における敗戦により、我が国は焦土と化した。

戦後の日本は奇跡とも言われる復興を実現し、今では世界経済を牽引し、信用もある豊かな国の一つと多くの国から認知されている。愛知県は多くの先人達 노력によって目覚ましい経済発展を遂げ、「ものづくり愛知」として我が国の経済を牽引し、また堅実で豊かな県となった。

しかし、平成の時代を振り返れば、バブル崩壊による失われた20年において、阪神・淡路大震災、リーマンショック、東日本大震災などの苦難を乗り越え、ようやく明るい兆しが見えてきたに過ぎない。世界に目を向ければトランプ政権による自国第一主義、中国の世界経済への台頭、イギリスのEU離脱とヨーロッパ各国の右傾化、北朝鮮問題等に加え、「第四次産業革命」といわれる経済大変化の時代を迎えている。

産業は、ものづくりの技術主導からIT中心の技術主導へと変わった。人工知能（AI）、モノのインターネット（IoT）、再生エネルギーなど、これからの産業をめぐる新たな動きは、これまでの成長モデルが通用しない、チャレンジを求められる時代を迎えている。

本県においても「人、モノ、カネ、情報」を駆使し、その先導役としての役割を担って行くことが求められる。

自由民主党愛知県議員団は、平成の時代から新たな時代を迎える今、愛知のポテンシャルを最大限に活かし、魅力と夢あふれる愛知を創造するため、あいちの魅力向上プロジェクトチームを立ち上げ、県当局からは生まれてこないユニークかつ新しい切り口を打ち出すべく、調査・検討を重ねてきたが、その成果を取りまとめ、「本県が希望の開拓者たれ」と願い、ここに提言する。

## テーマ1 愛知をキャッシュレス社会のトップランナーに

世界の国のキャッシュレス決済比率を見てみると、アメリカが45%、中国が60%、韓国は89.1%である。それに対して日本は18.4%と極めて低い。世界でも後ろから数えたほうが早いぐらいで、先進国で現金決済がいまだに主流の国は日本ぐらいであると言われる。こうした状況の中、日本政府はキャッシュレス化を強力に推し進めようとしている。

キャッシュレス化を進めるに当たり、デビットカードの普及促進が有効な手段の一つである。デビットカードであれば現金払いと同等であり、未成年も使用できるし、「後から請求されるから性に合わない」といった価値観を持つ人にも受け入れやすいと思われる。

「電子マネー」や「クレジットカード」がすでに十分普及し安定成長期にあるが、キャッシュレス先進国ではデビットカードが主役となっている。日本におけるキャッシュレス化は、「デビットカードの普及」が進展の鍵を握っている。あわせて、QRコード決済の普及促進も必要である。クレジットカード決済よりも導入時のコストが安価なQRコード決済を普及させ、愛知県の納税をQRコード決済でできるようにする事も一つの方策である。また、クレジットカード決済が我が国におけるキャッシュレスの代表である以上、事業者向けのクレジットカード決済端末導入における補助メニュー等の新設も検討されたい。

さらに進んだ、仮想通貨とブロックチェーンの技術が創り出す、新しいビジネスのプラットフォームの主導権を握る国際的な競争は始まっている。仮想通貨やブロックチェーンの技術の可能性について、国際的にこれだけ注目され、また既に色々な取組もなされているので、本県においても、官民ともに積極的に様々な取組を進めるべきである。

例えば、愛知県の仮想地域通貨をつくり、流通させ、取引所を設置し、今後利用が広がるであろう仮想通貨や円、ドルとの換金を可能にする。また、プレミアムの付与や、店舗などで決済に使える環境を整えることで、愛知県独自の仮想通貨圏をつくって世界中から投資を呼び込み、経済活性化につなげるべきである。

## テーマ2 リニア開通を契機に県内交通の再構築を

リニア開通を契機として、東京から県内の地域に人を呼び込めるような新たな鉄道整備も検討すべきだが、それに加え、首都圏のような鉄道の相互乗入・直通運転、同一ホームでの乗り換えなど、様々な手法を使って住民や来訪者の利便性を向上させるべきである。また、本県の空の玄関口である中部国際空港と名古屋駅の複数ルート化を図ることも求められる。

名古屋駅から10分も歩くと、柳橋や駅の西側には、いまだに“昭和の景色”が広がっているが、民間事業者の再開発を誘導することにより、面白いエリアを形成することが可能となる。駅の西側については、笹島再開発地区への鉄道アンダーパスが開通し、中川運河エリアが名駅と直結されたが、その先には競馬場（選手村予定地）があり、西側の新たな「軸」を形作っていくべきである。

一方で、近郊に目を転じると、東郷町や大治町など、鉄道の空白地域もあるほか、豊田だけでなく瀬戸・日進・小牧など名駅とダイレクトに鉄道でつながらない地域も多く、取組が求められる。

リニア開通の影響で「のぞみ」の運行本数が減ることで、豊橋駅・三河安城駅は、ひかり・こだまの増発で利便性が高まることが期待でき、三河エリアの広域アクセスが良くなる。さらに、奥三河地域は名古屋駅よりも飯田・中津川のリニア駅に近い。こうした状況を踏まえて、人口集中が進む東京から人を呼び込むために県内交通の再構築を行うべきである。

また、名古屋駅は、東京・大阪とも1時間圏内となるのを生かし、東京では新しく作ることが困難な広大な敷地を要する5万人規模のアリーナを作り、ライブコンサートやスポーツイベントなどの開催により、広域から人を集める方策を検討すべきと思われる。

### テーマ3 愛知を世界一のアニメ・漫画の聖地に

リニア開業により愛知・名古屋と東京が短時間で結ばれると、人口5千万人規模の大交流圏が誕生する。さらにアジア競技大会が開催されることにより、本県がアジア全域から注目を浴びる地域になる。そこで、本県として新たな可能性を求め、文化・芸術のポテンシャルを最大限に発揮し、独自の強みを創出していくべきである。特に、「アニメ・漫画」は、現代社会において、人々に感動や生きる喜びをもたらし人生を豊かにする芸術文化であり、本県は、『ドラゴンボール』の作者である鳥山明氏など著名な漫画家を輩出し、また、スタジオジブリ作品を活用した「ジブリパーク」の開業を予定していることから、文化・芸術としてのアニメを愛知独自の強みに育て、それを国内外に発信し、愛知の魅力向上と本県の地域振興へつなげる施策を展開するべきであると考えます。

具体的には、世界の玄関口となる中部国際空港を「ドラゴンボール空港」に改称することや、名古屋港のポートアイランドの「アニメの島」への活用。さらに、愛知県国際展示場にて「国際まんが博覧会（仮称）」や、本県の戦国ゆかりの各地で戦国時代を題材としたアニメ・ゲームのファンイベントを開催するなど、本県の誇る文化イベントである「にっぽんど真ん中祭り」や「世界コスプレサミット」に匹敵するアニメ関連イベントの開催・育成を図るべきである。

また、「世界一のアニメ・漫画の聖地」を目指し、県立芸術大学に漫画家や声優を養成する専門学科を新設するなど、「アニメ人材の育成」に重点的に取り組むべきである。この人材輩出により愛知がモデルとなるアニメ作品が生まれ、それが地域振興につながっていく可能性も考えることができる。そして、人材育成拠点として、県立芸術大学や愛・地球博記念公園などにおいて、漫画家・声優サミットを開催することや、愛知ゆかりの著名な漫画家が審査員となるアニメ・グランプリや本県独自のライセンス・アワードフェス（仮称）などを開催することも、愛知をアニメ・漫画の聖地化していくものと考えます。

本県が世界一のアニメ・漫画の聖地を真剣に取り組む姿勢としてアニメ振興条例（仮称）の制定などを検討し、アニメ芸術文化をインパクトある本県の魅力向上につなげていくべきである。

## テーマ4 水素エネルギーを活用した先導的な社会づくりと人材づくりを

日本では現在、電気、ガス、自動車用燃料等のエネルギーについて供給体制が綿密に敷かれており、安定的に供給されている。

供給インフラが整っている現在のエネルギーを水素に大きく舵を切るための大きな鍵を握るのは、地球温暖化に対する国際社会の対応である。

「先進国全体として、2050年までに80%又はそれ以上削減するとの目標」という国際的な強い制約が課せられた場合には、少なくとも大規模発電による電力は、温室効果ガスの排出量がほぼゼロであることが求められる。

水素は我が国における環境問題、資源問題、経済成長に関する課題を同時に解決し、他のエネルギーと共存しながら次世代を支える重要なエネルギーと位置づけられることから、電力の低炭素化、エネルギーセキュリティや国際競争力の面からもその代替手段として水素による大規模発電システムが期待される。

政府の定める水素基本戦略に基づき、本県でそのシステムを推進するには、次の整備が必要となる。

- ・水素の製造・貯蔵・運搬基地の整備
- ・水素製造の原料として天然ガス、バイオマスガス、産業副生ガスの確保
- ・国際水素サプライチェーン受入港湾基地
- ・大規模利用拠点（発電所、大型工場又は工業団地）
- ・利用促進のための供給ネットワーク（パイプライン、供給ステーション）

そこで、モノづくりを支える企業とトップレベルの理工系人材が集まる大学等と本県の連携（産学官連携）による国家戦略特区の創設を提案してはどうか。

例えば、「Next Generation エネルギー国家戦略特区（仮称）」を創設し、CO<sub>2</sub>の発生抑制と環境負荷に資する低炭素社会の実現を目指すべきである。

また、臨海部に大規模な水素エネルギーの供給拠点を構築し、大規模水素発電所を整備建設して、県内の産業、物流、家庭などに水素や電気を供給するとともに、水素を起点とした新しい産業と雇用を創出すべきである。

自由民主党愛知県議員団  
あいちの魅力向上プロジェクトチーム  
構 成 員

座 長 杉 浦 孝 成 議 員

副座長 安 藤 正 明 議 員 (11 月 25 日 まで)

石 塚 吾 歩 路 議 員

山 下 智 也 議 員

藤 原 宏 樹 議 員

成 田 修 議 員

石 井 拓 議 員

丹 羽 洋 章 議 員

辻 秀 樹 議 員